

前回の地層処分技術WGからの進捗と 今後の進め方

平成27年12月
地層処分技術WG委員長 朽山 修

前回の地層処分技術WGからの進捗

- 第15回地層処分技術WG(9月17日)

科学的有望地の要件・基準に関する検討の成果を整理



- 第22回放射性廃棄物WG(9月29日)

「科学的有望地の要件・基準に関する地層処分技術ワーキンググループにおける検討の成果」を報告

- 「国民対話月間」(10月)

処分地に求められる特性(適性)や段階的な選定の進め方を中心にシンポジウムを実施
(科学的有望地の要件・基準に関する検討状況を説明)

- 原子力委員会(11月13日)

「科学的有望地の要件・基準に関する地層処分技術ワーキンググループにおける検討の成果」を報告(第22回放射性廃棄物WGと同様の内容)

- 第23回放射性廃棄物WG(11月25日)

原子力委員会での議論を報告

放射性廃棄物WG及び原子力委員会における主なご意見

(地層処分技術WGの検討内容に関連するもの)

放射性廃棄物WG(9月29日)

- 社会の関心事項である安全性を重視した考え方、「適性の低い地域、高い地域」について分かりやすく整理されている点、専門家の意見募集など手順を丁寧に踏んでまとめている点については評価。
- 科学的有望地は安全確保を第一とした初期スクリーニングであり、この段階で最適地を選ぶものではなく、今後の段階的調査によって安全を確認していくと示されたことは重要。
- 沿岸海底下というオプションについては、選択肢を広げるという観点から歓迎するが、海水準変動に伴う侵食や地下水流動への影響など一般の方にはマイナスに聞こえるので、一般的な特性や留意事項について丁寧な説明が必要。
- 一般の方からすると、沿岸部については津波の被害などを意識せざるを得ない、将来の災害想定などを考えていくことが重要。

原子力委員会(11月13日)

- 関係学会とは、委員選出や意見募集等を通じ既に連携している点は評価。引き続き専門的な意見を広く求めていくことが、信頼性をもったプロセスを進めていく観点から重要。
- 使用する文献・データは国民理解の前提となるため、関係機関等から十分なデータを集めることが重要。
- 将来的に科学的有望地が提示されても、「適性の低い地域」の住民が無関心にならないような工夫が必要。

10月の全国シンポジウムにおける主なご意見

○シンポジウム参加者の8割越が「満足できた」「わかりやすかった」と評価(アンケート回答、どちらかといえば、も含む)、関心層には徐々に理解の広がり。他方で様々な懸念、不安も存在。

※第23回放射性廃棄物WG会合資料(11/25)より抜粋

- 廃棄物が問題というのであれば、廃棄物を増やすことになる原発再稼働は行うべきでない。
- 核燃料サイクルを前提とすることを見直すべき。
- 原子力の必要性・重要性について、政府は遠慮せず考えを明確にすべき。

- 「現世代の責任」とのことだが、「現世代の一部の者の責任」ではないのか。
- 最終的に人間管理に依らないという考え方ではなく、管理を続けるのが良いのではないか。

- 地震などが多い日本には、地層処分が可能な地域は存在しないのではないか。
- 地下研究所では地下水が大量に出ているが、地下水が豊富な日本で地層処分は可能なのか。

- 廃棄物の輸送時の安全性は大丈夫なのか。
- 埋め戻し後、誰が安全を担保するのか。事故には誰が責任を持つのか。

- 地方に処分場を押し付けるべきではない。都市部こそよく考えるべき。
- 原発の立地地域で保管するのが望ましいのではないか。
- 無人島で処分できないのか。

- 政府が強引に決めてしまわないか心配。
- 地域と丁寧に対話を重ねると言うが、もっと政府が強く出ていくべきではないか。

今後の進め方(案)

- 前回までの議論で残された論点を含めて中間整理を行った上で、放射性廃棄物WG、原子力委員会等で示された意見を踏まえ、今後、地層処分技術WGとして以下の取組を進める。

①関係機関や関係学会に所属する会員等への情報提供・意見照会

関係機関や関係学会に所属する会員等に中間整理について情報提供を行い、専門家間における認識の共有に資するとともに、学術的知見に基づく意見等を求め、使用する文献・データの充実を含めた検討成果の精緻化を図る。

②説明内容の充実

国民の一般的な疑問や懸念にわかりやすく答えることを重視し、必要に応じて説明内容の充実を図る。

- 上記の取組の結果及び別途進められる沿岸海底下などにおける地層処分の技術的課題に関する検討の成果を踏まえ、議論のとりまとめを行う。